

6月27日（木）周望学舎スポーツ大会開催

大会結果 紅組5点 - 白組2点

優勝した紅組、惜しくも敗れた白組、両軍とも精一杯奮闘しました！



周望学舎かわら版

発行
周望学舎
新聞編集
委員



楽しいスポーツ大会

健康づくりのサポーターコース 村上 豊子

六月二十七日のスポーツ大会、事故もなく無事終了したことに、スタッフ一同「ホッ」と肩の荷を下ろしていることでしょう。

学舎の平均年齢は七十一歳くらいと聞いています。あれだけ大勢（参加者四百八十六名）の人があれだけの競技をこなす。大したものだと思います。

見ていると、個人差はあるもののやはり六十代は軽い。七十代も後半になると、足取りは重く気持ちばかりが前へ・・・で、ヒヤヒヤの連続でした。

私も何度か参加しましたが、年ごとに衰えを感じます。昔々のコマージュナルよろしく、「我ら七十代！やる気はあるけど身体がついてこん！」でした。

が、楽しい楽しい一日でした。また来年も頑張ろう！

スポーツ大会の応援

陶芸コース 土岐 忠夫

初めての周望学舎、久しぶりの運動会、急に決まった応援団。一寸戸惑いましたが皆さんに親切に教えていただき、楽しく応援ができました。今回陶芸コースは紅組でしたが、白組に応援合戦では負けたような気がしたも

の、競技中の応援では皆さん一生懸命応援した甲斐があり、優勝できて良かったです。

運動会に参加したのは久しぶりで今まで競技には恥ずかしくて出場したことが無かったのですが、何故か今回はスムーズに参加でき非常に楽しかったです。これも皆さん和気藹々と明るく元気にふれあうことが出来た為と思っています。

周望学舎に入学出来て本当に良かったです。これからも機会があれば色々な行事に参加したいと思います。

些細なことですが・・・

国際情報コース 高岡 従道

周望学舎三行事のトップとしてスポーツ大会が六月二十七日、総合体育館にて開催された。今年には特に北九州市制五十周年を記念して「わっしょい百万踊り」がプログラムに加えられ、少々戸惑ってしまった。

当日朝、私は車両係として会場駐車場を利用する車の誘導を担当したが、顔見知りの有無に関係なく多くの研修生が挨拶や会釈をして行かれ、嬉しかった。この何でもないような心使いが日頃の学舎生活を豊かに、また有意義なものに形作っている要因なのだと実感した。

このような紳士淑女が集う行事が成功しない筈は無く、今年も多くスタッフと皆さんの協力により感動と親交をさらに深めることができ、さわやかな一日だった。感謝。

「スポーツ大会」の準備

ふるさと文化コース 中原 勇一

当コースの選手枠は二十八人となり、自由に申し込みが出来るように表を作成し宿泊研修のホームルームにてその旨を説明後、表を貼り、夕食までに希望の競技欄にご記名ください！とお願いしてました。果たして何人くらい申し込んでくださるか？と思案していましたが、案に反して皆様積極的に我先にと、全競技の選手枠が埋まってしまい、ひと安心……。

踊りは体育館にて「炭坑節」「オクラホマミキサー」と、皆様上手とは言えないが、それなりに……。 「わっしょい百万踊り」は、ビデオを観ながら練習！応援の仕方は団扇に「必勝」を貼り、僅かな時間を利用し……。

準備万端？皆様、楽しく、怪我なく！

周望学舎に学んで

心と身体の健康コース 日高 ハツ子

入学してみて、皆さんのパワーに圧倒され、続けられるかなと思った時期もありました。

クラスメートの大先輩に、一年間頑張ってみたらと後押しされ、今では学習するのが楽しいです。「知的散歩のすすめ」という授業では、散歩の気付きを実践しながら歩けば気分も良く、季節の香りを感じるとリラックスにもなり、最高でした。後半の学習もコースの皆さんと一緒に学びたいと思っています。

チャレンジ

ふるさと文化コース 井生 猛志

私は八十の手習いよろしく、今年はじめて周望学舎に入学しました。入学通知を頂いてすぐ、八年間乗ったバイクを新車に替えました。私は十七年前に肺がん手術をして、二回の脳梗塞では救急車のお世話にもなりました。

同じクラスの大正生まれの方が、学舎の坂を自転車で登って来られます。「北九州でバイクの新車を購入した最高齢者は、八十六歳の方です。井生さんチャレンジしてください。」と、ヤマハの支店長に言われました。

妻にその話をする、「私の料理を真面目に食べて、三度目の脳梗塞になれば大丈夫でしょう。米寿のお祝いに、私が新車を買ってあげましょう。」と宣うた。

周望学舎から版へよせて

歴史に学ぶコース 上上上(うえがみじょう・矢野明男)

最近、古い映画を二本観た。一本は木下恵介監督の『二十四の瞳』で、北九州市制五十周年記念事業の一環として上映された。同映画は六十年前も前に封切られたものだが、日常生活の中の何気ない会話の中に、市井人の平和を希求する心情が吐露されていて、静かな感動に浸ることができた。

もう一本は『砂の器』で、「林芙美子と郷土作家たち」と題する特集で小倉昭和館において上映された。

この作品は約四十年前にも鑑賞したことがあるが、あらためて野村芳太郎監督の映画製作技法の斬新さに感嘆すると同時に、絶妙な脚本に畏敬の念を抱いた。

ヒューマニスティックな心の琴線にふれる映画は、何回観ても快いものだ。

「サクラサク」孫の電話に 歓喜する

陶芸コース 仲道 敦子

母の日に 母の形見に 風とおす

健康管理コース 小野 茂子

菖蒲園 華で彩る 夢の道

陶芸コース 福留 純恵

雨降らず 紫陽花の花 色あせて

水を求むや こうべおもたげ

陶芸コース 河村 実

腹八分 クラス全員 健康美

「反抗しない夫」

健康ダイエットコース 岸本 繁勝

〈高塔山にて一句〉

紫陽花や 庭を彩る 七変華

健康ダイエットコース 田原 喜代松

高塔の あじさい映ゆる 洞の海

健康ダイエットコース 渡辺 吉浩

私も一年生

陶芸コース 上田 初江

本年四月の善き日に、周望学舎に目出度く入学が出来た。

両親は、勉強をする事は勧める方だったのに、何か当時は普通の女の子は大学に行かなくて良いと思っていたようで、私は大学には行っていない。しかし、私の心の中には自分の子育て中にも「大学」という響きが離れず、その気持ちをずーっと引きずって生活してきた。だから、今は本当の大学一年生に私はなった、と誇りを持っている。毎週金曜日が来るのが楽しみでワクワクするのは、私だけではないと思う。これからも、私なりに皆さんと仲良く学校生活をエンジョイして行きたいと思う。

周望学舎入学のきっかけ

生活情報コース 矢狭 千恵子

二十年くらい前から周望学舎の存在は知っており、かねて入学したいと思っておりました。講座が始まり、最初は何故貴重な時間を割いてビデオを観たり昔風な講義を受けたりしなければならぬのか疑問でした。しかし、実技や見学をするに従って、凄く前向きになってゆきました。教室内では皆様と冗談を言える雰囲気になりつつあり、企画して実行する喜びも湧き、仲間づくりは難しいかもしれないけれど自分から進行してゆくしかないと思っています。講義の内容で深く感じたことは孫や九十八歳になる母や嫁に話をしてあげる目標があり、これからも楽しんで通学します。

周望学舎を夢見て

生活情報コース 松尾 嘉之

四月八日今日で七十六歳、しかしまだまだだ。昨年から何かをしたい、との思いが強くなり湧いてきた。ある飲み会で倉橋加代さんから、周望学舎に来ないか？と誘われる。周望学舎で何を学ぶのかと思っている時、パンフレットが来る。大学校の字が目飛び込んできた。息子二人は大学を卒業、私は高卒。よし俺も、と迷わず申し込む。入学〇〇との通知。息子・孫に、俺も大学に行くぞと連絡、奴等の笑って驚く顔が目浮かぶ。パーカーの万年筆が届く。懐かしい学用品だ。学舎登校初日に自己紹介があり、前を見ると阿部道子さんが一番前で笑っていた。倉橋さんと阿部さん、二人の女神がいるから安心だ。今から何かあるか楽しみだ。この原稿を見せると妻が一言、私には何も感じないのかな？お前さんには結婚以来五十年感謝、感謝だよ。お前さんがいて今の俺があるんだよ！

景色がいいね

心と身体健康コース 坂口 哲雄

私の周望学舎登校の楽しみに、第二駐車場辺りからの約百メートルの登り坂を、その右手・東側の景色を眺めながら歩いて登るといふものがあります。そこからの景色は、まず空と雲、そして足立山や妙見山の山並み、その麓の家並みやビル、それらを横切る都市高速道路やその間の篠崎八幡宮の緑の塊、そして周望学舎の木々の緑が一幅の絵画のようであり、雄大で美しくいつもひとり感嘆しています。そしてその景色から、ある時は心の安らぎを感じたり、ある時は活力や励ましを感じたりすることがあります。だから今私は登校時、その景色を眺めながら「景色がいいね。」と独り言を呟きつつ、その坂道を歩いて登るのを楽しみにしています。

夏帽子 父の匂いの ここにあり

健康づくりサポーターコース 渡辺 サカエ

黒猫や 涼し 駅舎を 独り占め

暮らして環境コース 柏田 知甫

玉入れに はしゃぎ青春 ふと取り戻す

花と野菜づくりコース 木下 肇子

慈しむ「共助」我もその域

アジアを学ぶコース 中村 重一

人は皆、何時までも健康で、倅せでありたいと願って生きている。私達の住む北九州市は全国平均値を超える長寿の街だ。「長寿」の歓びと此の残り火に、多種多様な人間模様が展開されるのである。過日、宿泊研修の際、人権啓発の一環として、北九州市社会福祉協議会のアニメ映画『探梅』を視聴し、深く心に響いたひと時だった。

激動する世相、真に触れ合う場の欠如からか、都会に向かうほどに人の砂漠化が著しい。

今こそ「向こう三軒両隣」という日本の美しい教えを、広く地域社会に望みたいものである。叫ぶ「絆」は小さな思いやりから始まる。

『周望の 三百六十五分の一夜』

巡り合い 触れ合う心 探梅に見る』

身も心もダイエット

健康ダイエットコース 原田 國雄

久しぶりに坂の道を登っていった。今年は十日も早く桜は散った。どこか寂しい四月が始まった。でも私の歩くこの道には「八重の桜」が「吉野の桜」がまだ散らずに待っていてくれた。私の新学期は明るくスタートした。懇親会が門司の「ぶぜん」であった。潮の薫りがした。夕陽が海を紅く染めた。一杯の酒と、一つの唄が友を作った。

雨上がりの平尾台を歩いた。新緑の風師山に登った。山田緑地で赤い実を口にした。そして、紫陽花の頃は高塔山に行った。花の向こうに海があった。櫂の下で弁当を広げた。帰り道、火野葦平の旧居「河伯洞」を見学した。庭の見渡せる廊下に佇んだ。幸せな昼下がりだった。私は身も心もダイエットする為に歩いてゆく。

周望学舎に入学して

写真入門コース 野村 文夫

会社を退職し、第二の人生をスタートさせた今、何かせねばと思っていました。いろいろチャレンジしたことが数多くありますが、市政だよりと身内の勧めもあり、早々申し込みのはがきを投函したものでした。募集三十名の枠もあり一発で決まると思っていたのです。

入学案内が届き、四月入学式、はや三ヶ月が過ぎました。いきなりスポーツ大会の実行委員となり、大会の選手宣誓まですることになったのです。

久しぶりのドキドキ感を味わいながら、皆さんの協力のおかげで無事終了を迎えることができました。皆さんお世話になりました。スポーツ大会は、学舎生活の良い思い出として私の人生の一ページを飾ることとなりました。二ページ目は何が来るかわかりませんが、ポジティブに頑張りたいと思っています。

長嶋茂雄さんのこと

写真入門コース 仲道 弘起

私が大切にしている物の一つに、読売ジャイアンツ終身名誉監督長嶋茂雄さんから貰ったサインボールがある。このボールは今から二十五年ほど前になるかと思うが、当時北九州市民球場でシーズン中に一試合だけ行われていた巨人戦の際、ファンクラブの地区代表であった知人の紹介で球場内にて長嶋さんに会い直接サインして貰ったボールであるが、緊張のあまりその時どんな会話をしたのか全く覚えていない。

サインボールには、「仲道様へ

長嶋茂雄」とマジックで黒々と書かれている。今は自宅の本棚の中に、大切に飾っている。長嶋さんは奥様を亡くされたうえ、自らも九年前に脳梗塞に倒れ右半身に麻痺が残られたが、昔も今もダンディーで恰好良い。今年五月五日に東京ドームで行われた国民栄誉賞授与式は、私にとっても無上の喜びであった。



友を「周望学舎」へ案内

社交ダンス入門コース 石川 博司

帰省中の友、駅前で茶色の大型バスを見て、「北九州市の高齢化も相当だな。」なんと周望学舎のバスを老人施設送迎用と勘違いする。

学舎を見せてくれと、タクシーで団地内の狭い道・左直角・右四十五度・急坂へ。運転士さん「あのバスでこの角を曲がる腕は相当だよ。」全く同感。さあ到着、古風な白い建屋・レトロ調スピーカー・大パノラマに感動し、ビデオに収める。

ホテル最上階、関門海峡に沈む夕日を眺め話題は周望学舎の事。「大学でダンス、老春謳歌だな。」「そう、惚れると惚けるは同じ文字だろ、みんな『ホレル』の精神で頑張るとるたい。」と二人で大笑いする。「いいなあ田舎の男は?」「早く帰って来いよ。」と言えば、肩を窄め東京行き新幹線の人となる友。

【夏は甘酒】

起源は古墳時代に遡り、日本書紀にも登場するという「甘酒」。冬のイメージが強いですが、実は江戸時代には暑気払いとして飲まれ、夏の栄養ドリンクとして日本人に親しまれてきました。歳時記では夏の季語ともなっています。

暑い夏は甘酒で乗り切りよう!

【編集後記】

周望学舎新聞編集委員として、早や四か月。コースの皆様にご協力いただき、心と原稿募集にご協力をいただき、かわら版第一号を発行することが出来ました。ありがとうございます。

周望学舎新聞編集委員一同

